平成27年11月2日

保護者の皆様

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

千早赤阪村立赤阪小学校
校　長　　安　尾　健　也

今年の4月21日に実施しました標記の調査（6年生対象）の結果から見えてきた本校6年生の実態と今後の課題と改善点について、学校として行った分析と考察をお知らせします。

調査結果について

調査の結果は、正答率という形で百分率で表されます。6年生の在籍児童は22人で、1人の正答率が約5％と大きく、1人の結果が、全体の数字に与える影響が大きすぎるので、正答率の単純な比較は統計的にはあまり意味がありません。ですから学校としては、一人ひとりの結果について細かく分析し、一人ひとりの課題を明確にして今後の指導に取り組んで参りますが、紙面に個人別の課題を掲載することができませんので全国や大阪府の平均正答率とも比較も参考にしながら概略を報告させていただきます。

また、本調査により測定できるのは、学力の一部で（数値化できるもの）に限られ、学校における様々な教育活動の一側面に過ぎないことをご理解ください。

国語科の調査より

A調査（主として知識）について

大阪府平均正答率を少し上回り、全国平均正答率を少し下回っています。

国語科の領域として

① 話すこと・聞くこと」②「書くこと」③「読むこと」

④ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

の4つの領域があり、それぞれに関する設問があります。

②「書くこと」④「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関しては全国の平均を上回り、特に「書くこと」については大きく上回っていました。

しかし①「話すこと・聞くこと」③「読むこと」について、は全国平均を下回りました。

①「話すこと・聞くこと」に関する設問は一問のみで、『聞き方の説明として適切なものを選ぶ』問題でした。この正答率が少し下回っていました。「読むこと」に関しては4題あり、『新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える』『物語の一部を読んで、登場人物の相互関係を捉える』設問で全国平均を下回っています。

「話の内容に対する聞き方を工夫すること」や「物語を読み、登場人物の相互関係を捉えること」に課題があるようでした。目的や意図に応じて、いつも同じ聞き方ではなく聞き方を工夫するといいということや物語から登場人物を整理して相互の関係性を捉えるような指導を充実してまいりたいと思います。

④「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」での正しい漢字の読み書きに関しては全て全国平均を上回っていました。漢字の読み書きに関する基礎学力は向上していると言えます。

ただ、文の中における主語を捉える設問が下回りました。

主語と述語は、文の骨格をなし、明確な文章を書く上で最も基礎になるものであるので、文の構成について初歩的な理解ができるよう指導の充実を図って参ります。そのことで、わかるように話すことや聞き方の工夫にもつながるようにしていきたいと思います。

B 調査（活用力）について

大阪府平均正答率、全国平均正答率を少し下回りました。

B調査は、②「書くこと」③「読むこと」についての問題のみで、こちらの調査でもA調査と同様③「読むこと」に関する課題があることが共通していました。

特に課題があったのは『文章と図を関連づけて、自分の考えを書く』設問でした。児童が文章と図やグラフなどと関係づけて、自分の考えをまとめるためには、図やグラフなどを読み取るとともに、文章と図やグラフなどとを関連づけて読むことについて指導することが大切であると感じます。その際は、図やグラフの内容が文章のどこに取り上げられているのか、どの程度詳しく説明されているのか、図やグラフがあることによってその文章がどのようにわかりやすくなっているのかなど、文章と図やグラフなどとの関係や効果を捉えることができるようにより丁寧に指導していく必要を感じましたので、今後授業の中で改善を図って参ります。

算数科の調査より

A 調査（主として知識）について

大阪府平均正答率・全国平均正答率をともに上回りました。

算数科の領域としては、

①数と計算　②量と測定　③図形　④数量関係　があります。この4領域の設問すべてにおいて大阪府平均正答率・全国平均正答率を上回っています。

全16設問中、平均を下回ったのは4設問で、その4設問は、

・5.21＋0.7 は、0.01 が何個集まった数かを問う問題。
・異分母の分数の引き算問題
・円の中心と円周上の2点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由を問う問題。
・円の中心と円周上の2点を頂点とする三角形の角の大きさを求める問題。

でありました。

①数と計算に関する計算問題では、ほぼよくできていましたので、基礎的基本的な内容についての内容の理解は進んでいると思われます。

B 調査（主として活用）について

大阪府平均正答率、全国平均正答率を少し下回りました。13設問中では7問で上回っていました。活用力について、特に課題を感じた設問は以下の2問です。

・20％増量した商品の内容量が480mL であるとき、増量前の内容量を求める「割合」の設問。
・示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを説明する「図形対角線と面積」の設問。

この2問については、全国平均正答率・大阪府平均正答率とも低いものでした。食器洗いの洗剤が20％増量中や閉店前のスーパーマーケットなどで30％割引シールが貼られる光景などは日常生活によくある場面です。今回の設問では、増量前の量から増量後の量を求めるのではなく、増量後の量から増量前の量を求めるという思考過程は、難易度が高かったようです。増量前の量を（□）として、20％増量した後の量が480mL であることを、図や数直線で表して数量の関係を整理して捉えた上で、基準量を求めることが必要です。国語の課題としても図やグラフなどの読み取りを挙げましたが、算数においても単位量当たりの大きさを読み取り、活用して、合理的な判断と能率的な処理ができるように、授業でも、より丁寧に問題解決の具体的な道筋を示しながら指導を重ねたいと思います。

また、図形の問題では、等しくなるわけを説明するという問題でしたが、算数科における説明では、問題文にある記号や数量、算数科の言葉を使って、根拠となる事柄を過不足なく説明しなければ正解にはなりません。本校は授業の中でも、自分の考えを説明する場面を意識的に多く入れた授業に全校的に取り組んでいますが、前提となる考え方や理由などの根拠を明らかにして、論理的に考えたり説明ができるように、「その理由はどうしてかな。」「もっと詳しくいえませんか。」

などの発問をし、解決のために必要な根拠を満たす説明になっているかどうかを話し合うような授業中の場面をつくって行きたいと思います。

主に正答率の低かった2問を分析しましたが、7つの設問では全国正答率、大阪府正答率を上回り、他の問題も概ね、全国正答率、大阪府正答率とかわらず、活用力の育成について、改善していると思います。

今後も、日常生活の事象の解決に、「割合」「概算」「四則計算」等を活用して目的に応じて合理的かつ能率的に判断する能力が高まるように、また、算数の有用感を感じさせるような授業を展開していきたいと考えています。

昨年度からは、基礎的、基本的な指導の充実と言語活動の充実に焦点を当てた授業改善を進めてまいりました。また、繰り返しプリント学習をすることで、基礎的な学力の定着に努めてまいりました。正答率の特に低い児童に対する個別支援のあり方も工夫し、通級指導教室や習熟度別指導を充実するなども行ってまいりました。今回の課題を踏まえて今後もこの方向性をより極め細やかなものに改善して参ります。

理科の調査より

大阪府平均正答率・全国平均正答率をともに少し下回りました。（全12設問中5問で上回っていました。）

顕微鏡の使い方については、全国正答率、大阪府正答率ともに大きく上回る好成績でした。これは、顕微鏡を使った授業で実際に顕微鏡の操作をして、そのときのピントを合わせた経験が身についていると思われます、しかし「顕微鏡」という器具の名前を書く問題の正答率は、予想外に低く、漢字で書こうとして漢字を間違えたのかもしれません。

また、メダカの雌と雄を見分ける方法を理解しているかどうかを問う問題も、全国、大阪府平均正答率ともに大きく上回っていました。これも、実際にメダカを飼育して、科学的に観察を積み重ねた経験が身についているものと思われます。

インゲン豆とヒマワリの草たけの変化を表した二つの棒グラフから、畑にどのように植えたら、両方に日光が当たるのかという、表やグラフから読み取ったことをもとに思考判断する設問では大阪府平均正答率と本校平均正答率が全国平均正答率を下回っています。国語科、算数科に共通する課題として、グラフや図の読み取りから適切に判断する、というような活用力を育てていく必要を感じます。

理科については、学習指導要領の目的の中で「自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。」となっているように、顕微鏡やメダカの観察をはじめ、植物や星の動き、温度、電気、磁石といった科学的な事象に対して、実感を伴った理解が進むように、これからも実験や観察、映像や動画資料の活用などをとおした授業を進めて参ります。

学習状況アンケート調査より

児童質問紙によるアンケート調査から、全国平均と比較して違いが大きい設問から見えてきたことをいくつか分析し考察します。

「宿題をしていますか」「朝食を毎日食べていますか」「家の人と学校の出来事について話をしていますか」「ノートには学習の目標とまとめを書いていたと思いますか」という設問での肯定的な回答が多く、家庭での様子や学校でのノート指導の成果を感じています。また、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることはむずかしいと思いますか」という設問に否定的な回答をした子は全国平均の半分以下でした。授業の中で根拠をもって説明する場面を意識的に取り入れてきた取り組みの成果が出てきたのかもしれません。

以下は設問の中から見えてきた規則正しい生活習慣についての課題について考察します。

「毎日同じ時刻に寝ていますか」という質問に「あまりしていない」「まったくしていない」と答えた

子がクラスの25％います。
　そして、「1日あたり4時間以上ゲームをする」割合が25％「3時間以上」が30％で「2時間以上3時間未満まで」を含めると60％の児童が当てはまり、全国平均、大阪府平均のグラフをを大きく上回っているのが特徴的です。そして「1日当たり学校以外でどれくらいの時間勉強しますか」という質問には「30分～1時間」「30分より少ない」という児童が全国平均を上回っています。
　数字の上からは、毎日朝食を食べ、規則正しい生活をしている児童も多くいることは事実ですが、遅くまでゲームをして、学習時間や規則正しい生活に影響している児童がいることが見えてきます。2時間3時間4時間、毎日ゲームをする子が6割というのは、やはり、多いのではないでしょうか。
　また、「家で自分で計画を立てて、勉強をしていますか。」という設問では、「している」と回答した児童はゼロで、「あまりしていない」「まったくしていない」を合わせて75％です。
　ここから見えてくるのは、たとえば、「今日は、漢字の宿題をしてから、作文を書いて、本読みをして、そのあと8時にお風呂に入ってから、少しゲームをして10時に寝よう。」というような見通しを持った学習の良さにまだ気づいていない子が多いのではないかということです。
　他には、「自分には、よいところがあると思いますか」という設問に否定的回答をする子が45％で全国平均を大きく上回っています。自尊感情を高めていかなければならないと思います。「あなたはこんなこともできるし、こんなにいいところがあるんだよ。」というもっと自分に自信をもってほしいと願っています。
　先日、心の再生府民運動のティッシュを配布ました。大阪府では、7つのアクションと「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨した運動を展開しています。「ついついゲームをしてしまう」くらいストレスを抱えている子供たちが多いと思われますが、ゲームへの誘惑に勝つ強い心をもち、家庭での学習時間を確保し、規則正しい生活習慣を確立する必要があるということがアンケート調査からは見えてきました。
　それぞれのご家庭では、それぞれの生活サイクルや異なった事情がおありのこととは存じますが、例えば、テレビを観る時間やゲームをする時間について約束を決める、夜更かしをしないように見守る、朝ごはんをきちんと食べさせるようにするなど、規則正しい生活リズムが定着できるようにご協力をお願いします。規則正しい生活は、学校生活や日常生活での気力やエネルギーにもなり、学力向上との相関関係があることは事実としてわかっています。どうかお子さんのために、意識してよりよいものになるようにご協力をお願いいたします。

さいごに

　本校ではこの分析結果を、学校での指導法の工夫や家庭での学習に対する助言等に生かしていきたいと思います。
　本校では、「学び合い、深め合い、伝え合う子供の育成」をテーマに、上記でも書きましたとおり授業の中に意識的に自分の考えを伝え合う場面を多く取り入れたり、3年生以上での算数科の習熟度別授業を進めたり、学級を2つに分けて少人数指導をすることにより児童一人ひとりに応じた指導を行ったり、1学級を2人の教師で指導するティームティーチング（TT）を取り入れたりし、指導法の工夫をしております。また、個別に支援した方が教育効果のある場合に通級指導教室も開設しております。今後も、教職員一丸となって一人ひとりに応じたきめ細やかな指導が行えるよう、できる限りの努力をして参ります。

　子供は、家庭と学校と地域で協力によって、健やかな成長ができるものです。ご家庭におかれましても、お子さんとのよりよい成長にむけての家庭環境づくりや、規則正しい生活習慣の定着、確立により一層のご配慮をいただきますよう重ねてお願いいたします。また、今後も、何かお気づきの事やご意見がございましたら遠慮なく担任をはじめ、教職員にお伝えください。